

日本英文学会東北支部 第 68 回大会資料

時：2013 年 11 月 23 日（土）・24 日（日）

所：東北工業大学八木山キャンパス
（宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1）

日本英文学会東北支部事務局

（〒 980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3-1 東北学院大学英語英文学研究所内）

電話：022-264-6401 ／ ファクス：022-264-6530

第 68 回大会懇親会のご案内

第 68 回大会懇親会を以下のように開催致します。詳細および申し込みについては、10 月に支部
会員宛に別送する案内をご覧ください。

【日時】 2013 年 11 月 23 日（土） 午後 6 時 15 分～ 8 時 15 分

【場所】 パレスへいあん

日 本 英 文 学 会 東 北 支 部

2013 年度 大会役員一覧

（敬称略・五十音順）

支 部 長	箭川 修					
副 支 部 長	佐々木 和貴					
理 事	飯田 清志	石橋 敬太郎	岩田 美喜	宇津 まり子		
	遠藤 健一	大河内 昌	大西 洋一	奥野 浩子		
	金子 義明	川田 潤	鈴木 亨	鈴木 雅之	村上 東	
大会準備委員	福士 航	古河 美喜子	飯田 清志	熊本 早苗		
	奥野 浩子	ルプシャ・コルネリア・ダニエラ				
開催校委員	高橋 克明					
事務局	福士 航（事務局長）	井出 達郎（事務局員）				

目 次

プログラム	2
〈第一日〉	
研究発表	4
〈第二日〉	
SYMPOSIA	
i. フィクションのポリティクス	7
ii. ユダヤ的想像力の秘密——現代のゴーレム表象	9
iii. The Left/Right Periphery in Language: CP 構造再考	11
特別シンポジウム 英文学研究における映像の文法	12
会場案内図	■

日本英文学会東北支部第 68 回大会プログラム

時：2013 年 11 月 23 日（土）・24 日（日）

所：東北工業大学八木山キャンパス

（宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1）

第一日 11 月 23 日（土）

理事会 午前 11 時 30 分より（9 号館 922）

開会式 午後 2 時 00 分より（9 号館 921）

□開会の辞

日本英文学会東北支部長 箭 川 修

研究発表 第 1 発表 14：30 - 15：00 第 2 発表 15：05 - 15：35
第 3 発表 15：40 - 16：10

第一室（9 号館 911）

司会 東北大学名誉教授 鈴 木 美津子

1. 'All Deaths Are One Death'

ウルフ『波』と第一次大戦の死の記憶 東北学院大学大学院 畠山 研

司会 山形大学教授 中 村 隆

2. ヘンチャードを忘却することを忘れてはいけない

ダブルバインドされた『キャスターブリッジの市長』

東北大学大学院 原 雅 樹

3. Don't Look Back in Anger

The Post War in Kazuo Ishiguro's *Never Let Me Go*

東北大学准教授 J a m e s T i n k

第二室（9 号館 912）

司会 宮城学院女子大学非常勤講師

清 水 菜 穂

1. キングストンの『チャイナタウンの女武者』における幽霊

東北大学大学院 王 偉

司会 岩手大学教授 斎 藤 博 次

2. 『グレート・ギャツビー』の音韻とリズム

就実大学教授 長 瀬 恵 美

司会 福島学院大学非常勤講師 渡 邊 真由美

3. ウィラ・キャザーの小説における都市像

東北大学大学院 席 芳 媛

第三室（9 号館 913）

司会 東北大学教授

金 子 義 明

1. 埋め込みと省略から見た日本語モダリティの構造

鶴岡工業高等専門学校講師 主 濱 祐 二

第2、第3発表 なし

第二日 11月24日(日)

SYMPOSIA (10:00 - 13:00)

第一部門(9号館 911)

フィクションのポリティクス

司会・講師	東北学院大学准教授	福士航
講師	大阪大学教授	服部典之
講師	東北大学准教授	岩田美喜
講師	米沢女子短期大学講師	小林亜希

第二部門(9号館 912)

ユダヤ的想像力の秘密

現代のゴーレム表象

司会・講師	尚美学園大学教授	伊達雅彦
講師	青山学院大学教授	佐川和茂
講師	専修大学教授	坂野明子
講師(資料参加)	日本女子大学教授	大場昌子

第三部門(9号館 913)

The Left/Right Periphery in Language

CP 構造再考

司会	秋田大学教授	上田由紀子
講師	東北大学大学院	戸塚将
講師	長岡工業高等専門学校助教	木村博子
講師	神田外語大学講師	藤巻一真

特別シンポジウム (14:00 - 16:30)

(9号館 921)

英文学教育における映像の文法

司会・講師	東北大学准教授	岩田美喜
講師	法政大学教授	丹治愛
講師	中央大学教授	新井潤美
講師	東京女子大学教授	原田範行

〈第一日〉
11月23日(土) 午後2時30分

研究発表

第一室 (9号館 911)

司会 東北大学名誉教授 ^{すず}鈴木 ^き美津子

‘All Deaths Are One Death’
ウルフ『波』と第一次大戦の死の記憶

東北学院大学大学院 ^{はたけ}畠 ^{やま}山 ^{けん}研

ヴァージニア・ウルフ (Virginia Woolf, 1882-1941) の『波』(*The Waves*, 1930) は、世紀転換期の英国社会で中産階級に属する六人の男女の幼少期から初老までの生涯を描く物語である。先行研究では、その当時の帝国主義的な時代背景や、自己、ジェンダー、政治・社会問題などが幅広く考察されてきた。一方、本発表では第一次大戦を経験した戦後社会の影響がテキストに刻まれていることを主張する。特に、物語の中盤、作中人物の一人ルイスが ‘all deaths are one death’ と言うとき、それは戦場で散った多くの男たちの死を示唆するものと解釈できる可能性を提示したい。

司会 山形大学教授 ^{なか}中 ^{むら}村 ^{たかし}隆

ヘンチャードを忘却することを忘れてはいけない
ダブルバインドされた『キャスターブリッジの市長』

東北大学大学院 ^{はら}原 ^{まさ}雅 ^き樹

Thomas Hardy の *The Mayor of Casterbridge* (1886) の主な物語内容が、マイケル・ヘンチャードとドナルド・ファーフリーによる、キャスターブリッジの市長の座をめぐる争いであることに疑問の余地はない。前者の敗北に終わるこの小説は、しかし、古典的な悲劇ではなく、むしろ、効率や技術力に左右される商人同士の経済的な競争をこそ描いているのである。競争の果てに、経済的勝者となったファーフリーには、経済的敗者となってキャスターブリッジを去ったヘンチャードを、友情によって連れ戻すことができない。こうして、物語は、ヘンチャードが自分の妻子を競売にかけた過去を隠したように、ヘンチャードをキャスターブリッジの外に追いやって忘却してしまおうとする。それどころか、ヘンチャード自身が「誰も私を記憶してはいけない」という遺書を残すのである。しかし、「私を忘れよ」という遺書を残すこの行為は、物語を二重拘束してしまうことで、物語が閉じようとするのを不気味に妨げ続けるのである。

Don't Look Back in Anger The Post War in Kazuo Ishiguro's *Never Let Me Go*

東北大学准教授 James Tink

This paper will address the historical context of Kazuo Ishiguro's bestselling novel *Never Let Me Go* (2005). Whereas many studies of the novel have examined the topics of cloning or of adolescence, this paper will explore the theme of the UK welfare state, and the contradictory approaches of the text to ideas of post-war British society. For on the one hand, this dystopian novel presents a satirical view of the welfare state imagined as a form of biomedical exploitation, yet on the other hand it conveys a sympathy for the progressive ideals of post-war liberal education as described by the narrator's memories of her school, Hailsham. This paper will analyze these twin impulses of nostalgia and critique in the text, and attempt to demonstrate that they are indicative of wider issues of representing the welfare state in modern British fiction. It will also suggest that Ishiguro's novel is not only a speculation on medical ethics, but also a self-conscious attempt to represent different claims about twentieth century Britain and post-war consensus politics from the vantage point of the new century.

第二室 (9号館 912)

司会 宮城学院女子大学非常勤講師 し 清 水 菜 穂

キングストンの『チャイナタウンの女武者』における幽霊

東北大学大学院 おう 王 偉

中国系アメリカ人作家マキシ・ホン・キングストン (Maxine Hong Kingston, 1944-) の『チャイナタウンの女武者—幽霊の中で過ごした少女時代の思い出』(*The Woman Warrior: Memoirs of a Girlhood among Ghosts*, 1976) は、中国系アメリカ人である「私」が中国からの移民である母との葛藤を通して、自己発見に至るまでを描いた作品である。『チャイナタウンの女武者』において注目すべきことの一つは、「メーター検針幽霊」、「雑貨屋幽霊」、「機械と幽霊で一杯のアメリカ」というような表現が頻出し、叔母の幽霊、叔母の生んだ赤ん坊の幽霊、学校の寮に出没する「座り幽霊」など実体をそなえた幽霊が多数出没することである。本発表では、『チャイナタウンの女武者』におけるテーマと関連づけながら、幽霊がいかなるものを表象しているのかを探ってみたい。

司会 岩手大学教授 さい 斎 とう 藤 ひろ 博 つぐ 次

『グレート・ギャツビー』の音韻とリズム

就実大学教授 なが 長 せ 瀬 え 恵 み 美

本発表では、『グレート・ギャツビー』の文章の美しさの根源を、音韻とリズムの特徴を明らかにすることによって探っていく。

散文の音韻的な特徴について考察することは、言語学的文体分析の中でもあまり行われてきていない。しかし、Leech & Short は「脚韻、頭韻、母音韻などの何らかの音韻的パターンがあるか。なんらかの顕著なリズムパターンがあるか。母音と子音の響きは特有的パターンを形成したり、類をなしたりするか、これらの音韻的特性がどのように意味と関連しているか。」(78) などについて研究すべきだとして、散文の音韻的特性の分析の重要性を強調している。また、Katie Wales も「小説家が、《表出》的效果や《アイコン》的效果のために、リズムを《前景化》することもある」(418) と述べている。したがって、小説の音——厳密に言えば音韻・音素——やリズムについて調査することは、その小説のスタイルの特徴を調査する一つの手立てとなるのである。

司会 福島学院大学非常勤講師

わた なべ ま ゆ み
渡 邊 真由美

ウィラ・キャザーの小説における都市像

東北大学大学院 せき ほう えん
席 芳 媛

ウィラ・キャザー (Willa Cather, 1873-1948) はアメリカの女流小説家で、一連の未開地との接触、雄大な自然との交感などの辺境小説を通じてアメリカ文学に大きな影響を及ぼしている。キャザーの作品中に描かれたアメリカ南西部やネブラスカの荒野と大草原の風景に比べて、作品における都市像についての批評は少ない、しかし、キャザー作品中の都市イメージに見られる象徴的な意味を考察することも重要な課題であると思う。したがって、本論では、キャザーの作品における都市像と都市風景を中心に次の三つの方面から分析してみたい。最初に議論すべき点は、キャザーの作品における都市像と都市風景に着目されることが少ない理由である。次に、作品中の一連の都市イメージを解釈し、そして、それらの作品を通じて隠されたキャザーの現代都市と文明に対する姿勢を考察したい。最後に、キャザーのこれらの都市像を、環境批評および地理学の空間感覚の観点から、より広く深く総合的に解釈することの可能性を考察したい。

第三室 (9号館 913)

司会 東北大学教授 かね 金子 よし 明

埋め込みと省略から見た日本語モダリティの構造

鶴岡工業高等専門学校講師 しゅう はま ゆう じ
主 濱 祐 二

Saito and Haraguchi (2012, 以下 S&H) は、日本語の CP 領域に生ずる補文標識が (1) に示す階層性を持つことを例証している (ModP 部分は筆者による加筆)。

(1) [CP ... [CP ... [ModP [CP ... Finite (*no*)] Modal] Force (*ka*)] Report (*to*)]

本発表では、S&H の議論に基づいて、命令・祈願等のモダリティや「だろう」等のモーダルが関与する CP およびその周辺領域の構造について、(2), (3) のような例を取り上げながら、分析を試みる。

(2) a. {明日/*昨日} までに A 社から返事が来るように。(祈願文)

b. 太郎は [昨日までに A 社から返事が来るように] と言っていたが、今朝やっとな返事が来た。

(3) A: 太郎は A 社に就職するかな。 B: うん, {だろう/*ようだ} ね。

主文と報告の「と」節では、ReportP 主要部が担う発話時指定のあるモダリティ素性の指定に違いがあり、また、個々のモーダルの語彙的性質が、補部の省略の可否に影響することを示す。

〈第二日〉

11月24日(日) 午前10時

SYMPOSIA

第一部門 (9号館 911)

フィクションのポリティクス

司会・講師 東北学院大学准教授
講師 大阪大学教授
講師 東北大学准教授
講師 米沢女子短期大学講師

ふく し わたる
福 士 航
服 部 之
岩 た 典
こ いわ み 喜
小 林 亜 希

文学研究において、ポリティクスはひとつの鍵語であり続けてきた。たとえばジェンダー・ポリティクス、ポストコロニアル的政治学、地政学など、さまざまな形で政治と文学との関わりに焦点を当てた批評は、豊かな成果を残してきている。本シンポジウムでは、上記のような視点に加え、とりわけフィクションの生成そのものに存するポリティクスにも、焦点を当てたい。散文文学テキストを、ポリティクスを鍵語として時代横断的に読むことで、フィクションの持つ政治性の危ない魅力を提示できればと考えている。

晩年の Aphra Behn のフィクションのポリティクス

福 士 航

1682 年、匿名作家による悲劇 *Romulus and Hersilia* に前口上と納め口上を寄稿した Aphra Behn に対して、当局は拘留命令を出した。その中で James Scott, Duke of Monmouth を過度に諷刺し過ぎたためである。その2年後、Behn は Duke of Monmouth の側近 Lord Grey たちのスキャンダルを元に、鍵小説 *Love-Letters between A Nobleman and his Sister* を出版する。1687年に出版されたその第三部では、1685 年のモンマス公の反乱の顛末も描き出すが、興味深いのは、政治への関与のしかたがそれ以前の Behn 作品とは異なり、必ずしも攻撃的な政敵の諷刺ではなくなっている点である。本報告では、特に *Love-Letters* を中心に、晩年の Behn 作品における政治の表象を比較考察してみたい。

ロマンスとポリティックスが交錯するところ

『トム・ジョーンズ』におけるジャコバイトの反乱とソファイアの遁走

服 部 典 之

ソファイアという恋人がいるにもかかわらず放蕩＝反乱するトム・ジョーンズは、サマセットシャーの屋敷を放逐された後、ロンドンへの道行きのなか、当のソファイアとすれ違う。彼女を追跡して半円形の旅を行うトムだが、途中北上するジャコバイト討伐軍に出くわして志願兵となろうとする。この政府軍に加わってれば、ジャコバイト軍に合流したウォルター・スコットのウェイバリーと戦うことになっていたかもしれない（どちらもフィクションだからあり得ないが）。しかし、結局戦闘の野望は捨てて、トムは彼から遁走するソファイアを追いかけることになる。この交錯は、政治と文学の交錯を象徴しているのではないだろうか。ロマンスと結婚の平和を最終的に選択したトムは放蕩者＝反乱者たることを放棄したのであり、この中に、王政復古劇以来のリバティーン文学の終焉が宣言されていると考えるものである（リチャードソンの『クラリッサ』に登場する鬼気迫る放蕩者ラブレイスの死についても同じことが言えるだろう）。同時にここには、17 世紀から続いた反乱の時代の終焉も示されているのではないか。以上の点を具体的に作品と時代の中で検証するのが本発表の目的である。

負の遺産を語り継ぐ 不在地主としての放浪者メルモス

岩 田 美 喜

チャールズ・マチュリンの『放浪者メルモス』（1820）は、非常に入り組んだ語りの構造を持つことで知られる。だが、クリス・ボルディックがつとに指摘したように、この一見いびつな語りには非常に綿密な辻褃合わせが施されており、放浪者メルモスに関する情報は（150 年以上をまたいでいるというのに）いささかも損なわれたり改変されたりせずに伝えられている。そのため、この作品は実に多様な声によって語られるにも関わらず、全体的には一つの声しかないような印象を受ける。

ところが、種々の声がホモフォニックに唱和して語り継ぐ人物・放浪者メルモスは、プロタゴニストでありながら作中のほとんどの出来事に直接関与せず、語り手の前に滅多に姿も見せない。この点において放浪者メルモスは、アイルランドにおける不在地主のような存在である。本報告では、カソリック解放運動のさなかにプロテスタント聖職者によって書かれた反カソリックの書でもあり、メルモス家の没落を描いた一種のビッグハウス小説でもある『放浪者メルモス』が内

包していた政治・宗教的な両義性を、多声によって和声的に語られ、不在のうちに存在する放浪者メルモスの描写を丹念に追うことで検証したい。

核時代のロビンソン *Pincher Martin* (1956) における 'Rockall' 表象

小 林 亜 希

William Golding (1911-1993) の *Pincher Martin* (1956) は、北大西洋に位置する孤岩に漂着した Pincher Martin の生活が詳細に報告される、ある種のロビンソン物語である。極限状況下の生がリアリスティックに描かれるにも拘わらず、最終章では Martin が岩礁に到達する前に死亡していたことが暗示されるため、実存主義的なテクストとして解釈される一方、神学的寓意を想起させるアレゴリー小説として読まれてきた。しかしながら、本報告では Martin が漂着する岩礁 'Rockall' の表象に注目する。'Rockall' は北大西洋に位置する「岩」であるが、1955 年に英国が大英帝国最後の領土として領有権を主張した「無人島」であり、冷戦期においては地政学的に重要な空間であった。Golding が拘った核時代のコンテキストから、最終章における Pincher Martin の死を読み直したい。

第二部門 (9 号館 912)

ユダヤ的想像力の秘密 現代のゴーレム表象

司会・講師

尚美学園大学教授

講師

青山学院大学教授

講師

専修大学教授

講師 (資料参加) 日本女子大学教授

伊 達 雅 彦
佐 川 和 茂
坂 野 明 子
大 場 昌 子

ゴーレム表象の軌跡 ユダヤ系アメリカ文学から日本のサブカルチャーへ

伊 達 雅 彦

ゴーレムとは、ユダヤ教のラビが創造する「土人形」であり「人工生命体」である。ユダヤ伝承のみならずユダヤ系アメリカ文学の中にも頻繁に登場し、ユダヤの文化的アイコンとして機能している。そもそもは差別や迫害からユダヤ民族を「守護」する存在だったが、長い歴史を経てその容態や存在意義は多様な変化を遂げた。あるものはユダヤという出自に固執したが、あるものはそれを忘れることでユダヤ世界の外に拡散していった。「土人形」という点から「怪物」的存在と見なされるものもあれば、「人工生命体」の観点から「人造人間」と見なされるものもある。細部は様々に改変されたが、遺伝子は確実に残ったと言えよう。本論ではそのような「ゴーレム遺伝子」がユダヤ系アメリカ文学だけでなく、アメリカのTVドラマ、映画、アニメの各ジャンルを、そしてさらに我が国の様々なフィクション・ジャンルを横断して行く様子を考察していきたい。(このシンポジウムは日本英文学会東北支部と日本アメリカ文学会東北支部との共催で企画、実施されるものです。)

ユダヤ伝説を辿ってイスラエルへ

佐川和茂

ユダヤ人は、不条理な世の中に対する反動として合理主義を追求してきたのではない。ただし、合理主義のみでは平板になっていたかもしれないユダヤ教に、神秘主義は厚みと深みを与えた。そして、人造人間ゴーレムの伝説は、この合理主義と神秘主義の狭間より生まれて、長い影響を諸方面に及ぼしてきたと言えよう。ゴーレムは、差別と迫害の歴史の中で極めつけの難問解決を委ねられた超人的な存在である。ユダヤ文学の諸作品でゴーレムが取り上げられてきたことは、ユダヤ人の歴史や宗教や商法などとも響き合っている現象である。また、ゴーレムは、ホロコーストの灰燼より甦り、多くの難民を受け入れ、ハイテク産業、農業、ダイヤモンド産業などを発展させ、強力な軍隊を擁するイスラエルにたとえられる場合がある。イスラエル国家誕生に伴う周囲のアラブ諸国との緊張関係を眺めるとき、中東諸国に新たな将来への方向を示すようなゴーレムの役割に期待したい。

ゴーレムの想像力の創造性

坂野明子

Steve Stern (1947 ~) は第二次大戦後にメンフィスに生まれ、ユダヤ的世界とは疎遠なまま成長した。その彼が文学の鉱脈として探り当てたのが、20世紀初頭のメンフィスのユダヤ人地区 the Pinch であった。彼の出世作、短編集『ラザー・マルキン天国へ行く』には現代アメリカとは異質の奇妙な人物たちが次々に登場するが、それは19世紀ヨーロッパのイディッシュ文学世界に通底しているように思われる。一方、長編作品『忘却の天使』では作者の分身と思しき主人公がプラハでカフカの足跡を訪ね、カフカの想像力の奥底にゴーレムが潜んでいることを知るのだが、そのことが契機となって彼は60年代的風来坊から新しいタイプのユダヤ系作家へと変身する。つまり、ユダヤ的世界と無縁だった二人の作家を繋げたのはゴーレムだったのである。本発表ではゴーレムが持つそのような可能性、ユダヤ的想像力の可能性について、他の作家の例も参考にしながら明らかにしていきたい。

近未来のゴーレム—マージ・ピアシーのサイボーグ小説

大場昌子

ゴーレム伝説には家父長制のユダヤ社会が反映されている面がある。ゴーレムを秘術により造ったとされるラビは、ユダヤ社会の宗教的指導者であるが、20世紀後半まで女性がラビになることはなかった。そして、伝説にも女性はほぼ登場しない。つまりゴーレム伝説は、男性のみによる生命の創造物語ということもできるのである。現代ユダヤ系女性作家マージ・ピアシー (Marge Piercy, 1936-) が1991年に発表した長編小説『彼と彼女とそれ』では、ゴーレムがサイボーグに置き換えられて、近未来を舞台とするゴーレム物語が語られる。この作品では優秀な女性科学者がサイボーグの製造に携わり、さらに製造された男性サイボーグが人間の女性に恋愛感情を抱く。本作品は、フェミニストとしての立脚点が明確なピアシーが、ゴーレム伝説を女性を中心とした物語に書き換えたものと言えようが、本発表ではこの書き換えの有意性について検討してみたい。

第三部門 (9号館 913)

The Left/Right Periphery in Language CP 構造再考

司会 秋田大学教授
講師 東北大学大学院
講師 長岡工業高等専門学校助教
講師 神田外語大学講師

うえ だ ゆ き こ
上 田 由 紀 子
と 塚 将
戸 村 子
木 村 真
藤 巻 一

Rizzi (1997, 2004) のカートグラフィー分析は、これまで命題 (vP) を中心に発達してきた生成文法理論の統語構造に、命題の外にあるとされる談話の意味機能を CP 領域の機能範疇投射として直接的かつ豊かに取り込むことに成功した。初期の生成文法理論においても、S' (S バー) レベルは、付加構造として重ねられた構造が仮定されてきていたが、カートグラフィー分析は、CP 領域が単独の投射ではなく [ForceP [TopP [FocP [FinP [TP ... という多重主要部を有する多層構造を持つことをこれまで以上に明確にあらわした。本シンポジウムでは、ミニマリストプログラムの枠組みを仮定しながら、この談話機能を有する多層構造CPの統語的特性をカートグラフィー分析と絡めながら議論し、明らかにすることを試みる。戸塚はカートグラフィー分析で提案された多層構造 CP を Chomsky (2000) 以降提案されてきたフェイズの視点から考察する。木村は削除現象から、藤巻は日本語の補文標識の視点から、CP 構造の解明を試みる。

カートグラフィーとフェイズ・モデル

戸 塚 将

Rizzi (1997, 2004) のカートグラフィーは統語構造と談話の意味とを直接的に結びつけ、機能投射により統語構造の豊かな側面を記述的に捉えるものである。その中で CP は単独の投射ではなく [ForceP [TopP [FocP [FinP [TP ... という多層構造を持つ。一方、人間言語に本質的な統語演算を探求するために、Chomsky (2000) 以降でフェイズ・モデルが提案されている。このモデルにおいてフェイズ主要部は C と v* であると仮定されており、その主要部が併合されるとその補部は解釈部門と音韻部門へと転送される。本発表では、CP を構成するどの主要部がフェイズを形成するのかという新たな問題を設定することにより、記述的な説明に重きを置く前者と理論的な説明に重きを置く後者との統合を試みる。具体的には、英語において、文の左方周辺部における現象である話題化と焦点化との間で示される様々な対比に焦点をあてながら議論を進めていく。

The Left Periphery of the Clause

木村博子

本発表は、省略現象の考察に基づき、談話領域の構造を解明することを目的とする。近年、カートグラフィーと称されるより綿密な統語構造を解明する試みが、Rizzi や Cinque らにより提唱されてきた。その結果、従来は CP として扱われてきた談話領域は、(1) に示すように細分化された。

(1) Force Top Int Foc Mod・・・Q Fin

(1) において、Force は文のタイプ、Top は主題、Int は何故のような wh 句や疑問の補文標識、Foc は焦点、Mod は副詞類、Q は疑問詞、Fin は定形 / 非定形をそれぞれ示す (cf. Endo (2009))。このように、談話機能は各々独自の構造上の位置と結びつくと思われる。本発表は、細分化された談話領域の構造を解明するうえで役立つ省略現象の考察を行う。

精緻化された CP 領域における補文標識の位置について

藤巻一真

Rizzi 1997 によるイタリア語における CP 領域の精緻化が日本語においてもなされてきた。Force から途中 Focus を挟んで Finite まで、それぞれが主要部として投射され、それぞれの主要部に何が対応するかが検討されてきている。例えば、「この時計はパリで買ったのですか」における「の」と「か」は栗原 2010 によれば、それぞれ Finite と Force の主要部と認定される。また、斎藤 2013 では埋め込み文について、引用節の「と」を含めて分析がなされ、「太郎は彼の妹がそこにいた(の)か(と)みんなに尋ねた」における「のか」とは階層的に [[[... Finite (の)]] Force (か)] Report (と)] のように投射される。本発表では、これらの分析を踏まえて、1) 命令・勧告の述語が選択する「... ようにと (命令した)」がどのように分析されるか、また、2) 「の」はどのような条件で Finite として具現化するかについて考察する。

午後2時

特別シンポジウム

(9号館 921)

英文学教育における映像の文法

司会・講師 東北大学准教授
講師 法政大学教授
講師 中央大学教授
講師 東京女子大学教授

いわ 岩 田 美 喜
たん たん じ あい
あら 丹 治 めぐ 愛
はら 新 井 潤 み
原 田 範 ゆき 行

昨今の英文学教育において、シェイクスピアやミルトンといった正典的テキストを原文でひたすら精読するといった幸福な授業形態を採ることは非常に難しくなっている (そして今後もいよ

いよ難しくなっていくだろう)。英文を地道に読む作業に慣れていない学生のために映像を活用することは、うまく出来れば作品世界への親しみを持たせ、作品の読解に積極的に取り組む動機づけにもなりうる。だがその一方、映画などの映像作品には文字テキストとは似て非なる独自の文法があり、単なる文字テキストの補助ツールとして映像を安易に使用することには注意が必要である。

本シンポジウムでは、英文学専門教育における映像活用の経験が豊かな講師陣を招き、映画や芝居のパフォーマンス映像などの要素を、どのような目的のため、どのような形態で使用しているか、その実践例と所見を具体的に報告していただく。事例報告およびフロアとの活発なディスカッションを通じて、文字テキストと映像テキストの両方に対する学生のリテラシーを高める可能性を探り、最終的には英文学教育全体の底上げに資する授業のあり方を模索したい。

授業中の映画は息抜きではない 『ガリヴァー旅行記』(1996)の見方／読み方

丹 治 愛

いまどきの英文学教師は、学生に原作を読ませるために、さまざまな苦勞をする。英語で読めとは言わない。文学教育なのだから、たとえ翻訳をとおしてでも原作のおもしろさに触れてもらいたいとの一心である。言葉を読ませて、そして書かせることを、文学教育の要であると感じている者として、イギリス小説史の講義で1週間に文庫本100頁から150頁を読んできてもらい、それについてなにがしかのことを書いてもらうことは絶対に譲れない。

そしてわたしは、学生に原作と映画を比較することを求める。第一に、テキストの細部を読む習慣をつけてもらうためである。第二に、原作と映画の差異(あるいは同一性)にどのような意味があるのかを考えることをとおして、テキストから意味を引き出す解釈という行為に慣れてもらうためである。

そのような授業のなかから、いったい原作と映画についてどのような見方／読み方が出てきたのかを、1996年版の『ガリヴァー旅行記』を材料にした授業実践のご報告をとおしてご披露させていただきたいと考えている。

映像は Dumbing Down か 文学作品とアダプテーション

新 井 潤 美

ある文学作品を読んだかと尋ねて「映画は見ました」というのはいわゆる「ダメな答」の典型として受けとめられてきた。文学作品を「映像化というかたちの解釈」ではなく、ひたすら「分かりやすく」映像化したという意味で、ヘリテージ映画が、安易なかたちでの「教養」を見る者に与え、それが文学作品の dumbing down の一つであるという批判もある。しかし、ヘリテージ映画で「教養」を得るどころか、娯楽としての映画そのものもほとんど見ないことが多い今日の学生にとって、「原作を読む代わりに映画を見る」こと自体がもはや、文学作品鑑賞における、安易なショート・カットではなくなっている。本発表ではジェイン・オースティンの作品をとりあげ、それを授業で扱う際に映像化作品を使うことによって、学生にとってどのような効果および影響がありうるのかを、実際の例を紹介しながら考察していきたい。

男尊女卑の DV 男か、犬も食わない痴話喧嘩か？

G. B. ショー『ピグマリオン』を読み、『マイ・フェア・レイディ』を見る

岩 田 美 喜

演劇のテキストを読むには一種のコツと慣れが必要であり、それをつかむには実際の上演を観るのが肝要だ。このことは特にト書きの少ないルネサンス演劇に当てはまるが、説明過剰なト書があふれる G. B. ショーの戯曲においても、学生にとっては関連する映像を見ることが解釈の視野を広げてくれるようだ。

本報告では、報告者が学部3～4年生向けに行った専門科目の事例を扱う。ミュージカル映画『マイ・フェア・レイディ』（1964）は、材源である『ピグマリオン』（1913）と結末が異なる点ばかりが有名だが、実は多くの場面でかなり正確に原作のやり取りを再現している。ところが、原作でヒギンズがイライザについて投げつける暴言に対し、「DVだ!」「この男は気が狂ってるんじゃない?」などと激しい拒否反応を示す受講生が、ミュージカル映画で全く同じやり取りを観ると「犬も食わない痴話げんか、ごちそうさまです」というコメントを寄せる。こうした受講生の文字／映像テキストの受容のあり方の背後には何があるのか、考察してみたい。

言葉と映像の語るもの、語らぬもの

配置、省略、現実／非現実、展開の技法をめぐる

原 田 範 行

英文学教育における映像の利用は、作品の概要を学生に分かりやすく伝える重要な導入教育の一つであるが、それと同時に、言葉の文法と映像の文法の差異を通じて、作品のナラティブや表現の特質をきわ立たせ、また演劇と小説、韻文と散文といった言語表現の諸ジャンルの特質を明らかにする助けともなりうる。それは決して、英文学の専門分野にとどまるものではなく、友人と会話をし、メールを読んだり送ったりし、ブログにその日の思いを書きつけるという、学生たちの日常的な言語生活と、彼らの目にする映像の世界との相違を自覚させ、情報媒体に関するリテラシーを培うことにもなろう。今回は、言葉と映像の差異を、人物や語り手の主体性が明らかになる空間配置の問題、描かれるべき何が省略されるのかということ、現実と非現実の接点の扱い、そして時間軸とストーリー展開の違いの四点に絞り、リチャードソン、ウォルポール、オーステインからマキューアン、イシグロまで、授業で扱った事例を紹介しつつ考察を進めたい。

大会会場（東北工業大学八木山キャンパス）へのアクセス

1. バス利用案内

仙台駅西口バスプール 11・12 番乗り場より、市営バス・宮城交通バスで霊屋橋・動物公園前経由「八木山南団地」「緑ヶ丘三丁目」など八木山方面線に乗り、「東北工大八木山キャンパス」下車。約 25 分。

2. タクシー利用案内

仙台駅～東北工業大学＝15 分程度、1,500～2,000 円程度